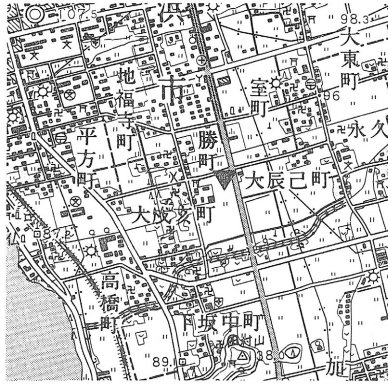


## 滋賀・鴨田遺跡

かもた

- 1 所在地 滋賀県長浜市大辰巳町
- 2 調査期間 一九九三年(平5)一〇月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 吉田秀則・重田 勉
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一四世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(長 浜)

鴨田遺跡は、姉川左岸に広がる長浜平野の中央部に位置しており、県内有数の弥生時代の拠点集落として知られている。長浜市内における中世の遺跡は、現在の集落と重複すると考えられてきた。その理由は、当地が姉川の氾濫原にあるためで、過去の発掘調査やボーリング調査でも多数の旧河道などが確認されている。このような背景がありながら、今回、比較的広範囲で

中世の集落跡が発見されたのは非常に珍しく、今後長浜平野における中世の景観復原の重要な資料となるであろう。

今回確認された集落跡は、周辺に現存する集落の跡地と考えられる。つまり集落の移動した痕跡と考えられるのである。これについては『近江国坂田郡志』に「古へは高鍋と稱せしを、天正年間異の方位にある地に移住し、辰巳と改め、後、更に大辰巳と改む。」とあるのが参照される。現在、大辰巳町の集落は鴨田遺跡の東方に位置している。一方、鴨田遺跡の西方付近を、つい最近まで周辺の人々は「たかなべ(高鍋)」と呼んでいた。現在の大辰巳町の西南、つまり巽の方位の逆に位置するのが当調査地であり、「高鍋」なのである。そしてその「高鍋」の伝承地から、室町期の集落跡が検出されたことによって、集落が移動したことが実証されたことになった。

遺構として注目されるのは地割の境界を示す区画溝で、この溝の位置は圃場整備前の水田の旧畦畔とほぼ合致する。区画内の遺構もそれぞれ切り合いや密度も違い、当時の集落内の様相を色濃く残している。

遺物の出土は少ないが、青磁・土師皿・摺鉢などがある。中でも土師皿は溝と柱穴内からはほとんど完形で出土しており、当時の地鎮祭などの様子を垣間見ることができる。

今回出土した木簡は、「西国三十三所観音巡礼」に用いられた巡

札で、区画溝から一括して出土した。本来、巡礼札は一定期間を経るとまとめて焼却されるものであるが、今回は投棄されたような状態で出土しており、焼却された痕跡も認められなかった。

今回の巡礼札の出土により、当時当地に何らかの寺院関連施設が存在した可能性が考えられるに至った。その存在の裏付けとなるような小字名や石碑なども残っており、当地は西国三十三所巡礼に係する、札所間の中継地のような場所であったのかもしれない。

8 木簡の釈文・内容

墨書の内容は主に、「西国三十三所巡礼」、「僧の位」、「出身地」、「年紀」などで、中には巡礼者の名前が記されているものもある。計約五〇点出土したが、今回は墨書の確認できる一九点を紹介する。

(1) 〔冊〕  
観世音舟三所遭礼同道数四人

宝徳四年三月十一日



271×60×1 011

(2) 〔冊〕  
正卅三所巡礼三人

宝徳四年

(215)×50×4 019

(3) 〔冊〕  
卅三所巡礼聖三×

宝徳四年四月

(186)×40×2 019

(4) 〔冊〕  
江州高嶋郡津東

三十三所巡礼同行二人

宝徳四年五月

日妙善

182×64×3 011

(5) 〔冊〕  
宝<sup>〔徳カ〕</sup>四年<sup>〔五カ〕</sup>月十五日

順礼聖同行三人<sup>〔常春カ〕</sup>

国<sup>〔往カ〕</sup> (花押)

〔大界カ〕

南無<sup>〔大界カ〕</sup>観世音

江州 (花押)

177×59×2 011

(6) 〔冊〕  
鈴鹿郡上田より

三所順礼聖同行四人

三所

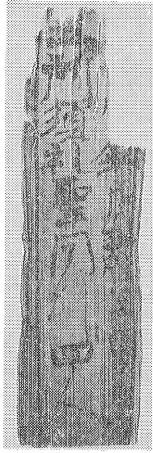
(169)×46×2 019

(7) 〔冊〕  
とうのくに

三十三所順礼一人

四月一日

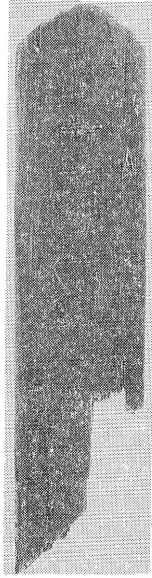
200×46×3 011



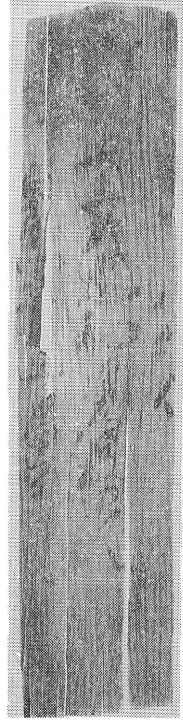
(6)



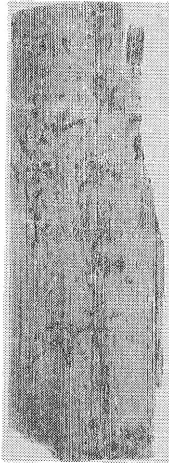
(3)



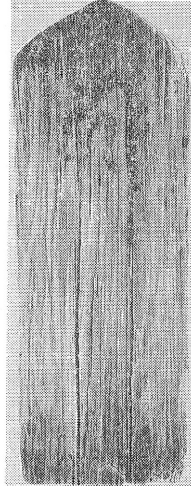
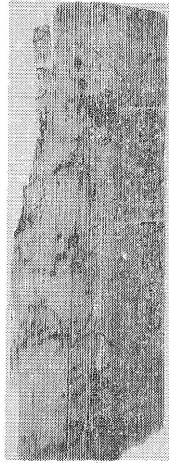
(2)



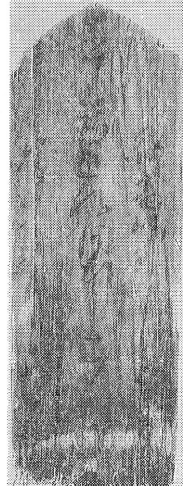
(1) 表



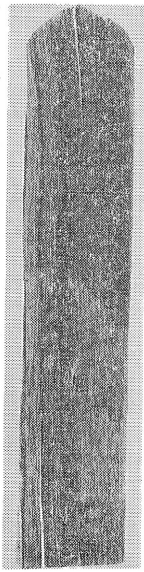
(5)



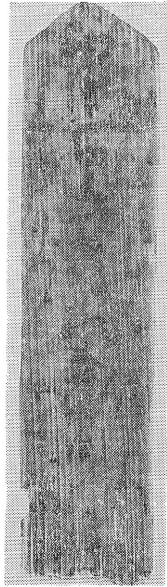
(4)



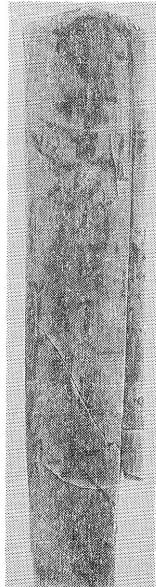
1993年出土の木簡



(9)



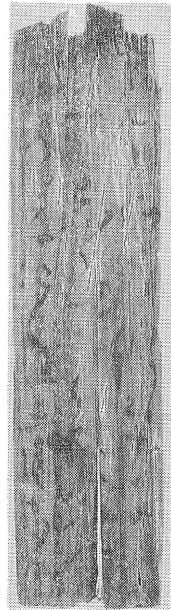
(16)



(17)



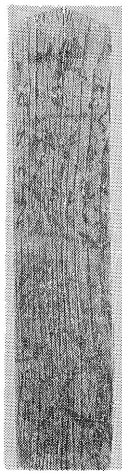
(19)



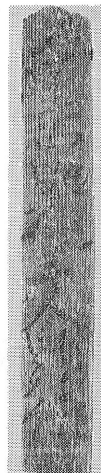
(14)



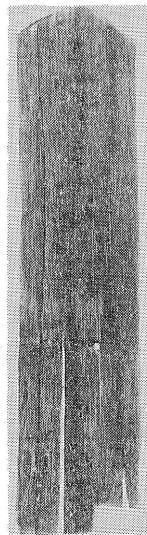
(10)



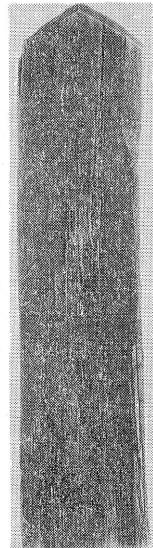
(13)



(15)



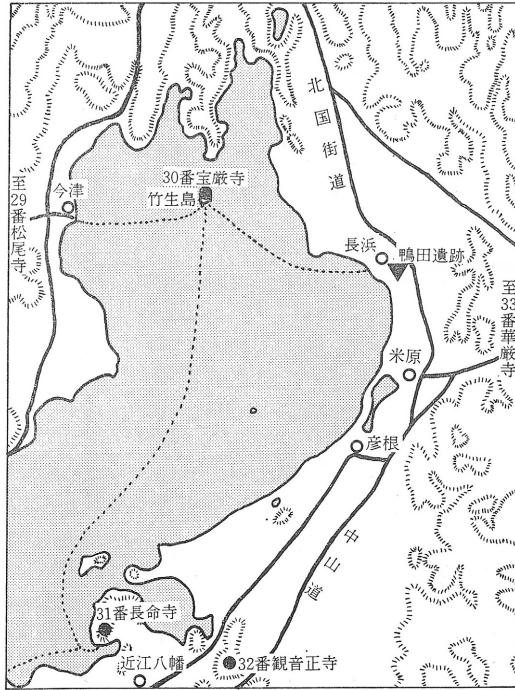
(7)



(12)



- (8) 「みのゝ国あかさかの住人  
卅三所順礼聖同行三人  
宝徳四年三月廿五日」  
203×57×3 011\*
- (9) 「大□□  
卅三所巡礼只三人石□□<sup>〔藤カ〕</sup>  
四月九日」  
215×41×3 011
- (10) 「播州三木郡吉河庄住人  
三拾参所順礼俗二人  
宝徳四□三月廿二日」  
155×37×3 011
- (11) 「つのかにあくたかはの住人  
三拾三所順礼聖一人  
宝徳四年三月四日」  
208×43×2 011\*
- (12) 「宝徳四年三月日  
三十三所巡礼只一人如祐」  
205×47×2 011
- (13) 「みのくに□□いの 宝徳四年  
卅三所巡礼只一人  
□□なかより 三月十日日」<sup>〔坂カ〕</sup>  
178×37×3 011
- (14) 「□□  
西国三十三所巡礼×  
た□□□  
(140)×(33)×2 081
- (15) 「三十三所巡礼三人□□はのくに<sup>〔志カ〕</sup>  
□□はやし」  
181×28×2 011
- (16) 「宝徳二年 僧一人  
西国卅三所巡礼遠江国□住人  
三月廿一日 □二人  
(155)×36×2 019
- (17) 「<sup>〔摩カ〕</sup>□□宝徳二年  
三所順礼聖五人敬白  
国 四月 一日」  
220×45×3 011
- (18) 「美濃州米田嶋住僧  
西国三十三所順礼僧只四人  
宝徳□□<sup>〔四カ〕</sup>□□九日」  
222×39×4 011\*
- (19) 「□□□□うの□□□□<sup>〔国カ〕</sup>  
卅三所しゆんれい一人  
ほうとく二年三月十八日」  
・「三月十□□□□□□  
卅三所 巡 三人」  
227×55×2 011



鴨田遺跡周辺の札所位置図

記載内容のうち特に注目されるのは、年紀と出身地である。年紀の確認できるものは全て宝徳四年（二四五二）であり、月日は三月初めから五月までとなっている。なぜこの期間の巡礼札のみが焼却されずに区画溝に投棄されたのか今後の課題となろう。なお、(15)の国名の部分の文字は「津」または「濃」の可能性があるが、「をばやし」は摂津国武庫郡小林（現兵庫県宝塚市）のことであろう。

（重田 勉）